

📅 12月7日 火の国ハイツ

第3回データヘルス計画の効果的な実施に向けた学習会

第2期データヘルス計画の作成に向け学習を深める

第3回となる今回の学習会には各市町村の国保及び保健の担当職員並びに保健師・栄養士等の専門職合わせて210人が参加した。講師には、第2回に続き長野県飯田女子短期大学非常勤講師の熊谷勝子氏を迎えた。今回は、第2期データヘルス計画作成のための学習を中心に行った。

まず、データヘルス計画が首相官邸からの直接の流れに位置づいていることを確認したうえで、計画の目的や対象疾患を指針で確認し、KDBシステム等で作成している資料を基に、計画の目的からはずれないようにデータを読み取ることが重要であること、同規模保険者等との比較を行うこと、アウトカム評価の重要性などを確認した。また、データヘルス計画の骨格や作成までのスケジュールについても確認した。

さらに、第3期特定健診等実施計画及び中長期目標疾患の計画については章立てで作成するように助言し、特に保険者努力支援制度の加点が大きい「糖尿病性腎症重症化予防」については、糖尿病性腎症重症化予防プログラム内容を基本とした、対象者把握や評価のための資料を提示しながら説明した。

各保険者においては、今回の学習を基に、今年度中のデータヘルス計画作成及び公表を予定している。



📅 12月8日 市町村自治会館別館

第3回データヘルス担当研修会（力量形成）

国保の財政と保健予防活動のつながりを学ぶ

本研修会は、各地区において将来的に保健活動のリーダーとして活躍できる保健師等専門職が、医療や健診データを用いた資料の作成及び活用方法や評価について学ぶことを目的の一つにしている。

今回は30市町村から保健師・栄養士40人が参加した。講師には、第2回に続き長野県飯田女子短期大学非常勤講師の熊谷勝子氏を迎えた。

今回の学習は、国保の財政を知ることを出発点とし、まず、法定外繰り入れの状況について各市町村の現状を確認した。これまで国保の財政のことを意識した保健活動を実施していなかった専門職が多く、法定外繰り入れや高い医療費は効果的な予防活動ができていなかった結果であることを認識する機会となった。また、このような状況が、データヘルス計画の推進や保険者努力支援制度の評価につながっていることも併せて確認し、重症化予防がいかに医療費と住民を守る活動であるのかを学んだ。

講師による健診結果の読み取りの実演もあり、どのような流れで健診結果を見ていくのか、結果から訪問目的をどう設定するのか等を学んだ。参加者からは「健診結果だけを見て対象者の生活や性格まで読み取る講師の力量に感銘を受け、大変刺激を受けた」などの感想が聞かれ、有意義な学習となった。

